

令和 6 年 8 月 1 0 日（土） デーリー東北

三戸高生 イベントで活躍中

三民·東部

二戸・南部 青森県立二戸高の生徒が、地元の商工会青年部が主催するイベントでスラップとして活躍している。高校生活にとっては活動の場を持つてもらえ、貴重な機会となっているようだ。（二戸高の）

(久留米文庫)

地元商工会青年部と協力

スタッフで運営側経験

7月21日(三)田を流れる「さんへの川まつり」では、蒲川村総合公園で開催された「生徒」がボランティアとして参加した。役所は川下り(舟)の運営補助で、生徒たちは、気温35度に迫る熱気の中、汗がくになりながらゴムボートを川上に運び続けた。

参加した1年の後藤増来さんは「大変だったけど、子ども

参加した1年の活動地草さん
は「大変だったけど、子ども

町へ愛着持つ機会に

「わたしが楽しんでるのを、見るに協力できたと考える」と話し、同じく1年の経験者さんは「履歴書に書くためだけに参加したつもりだったが、それ以上の経験が得られた」と充実した様子。

主幹した町工芸青年部の山田剛三郎部長は「高校生が経営者とふれ合う機会はないかな」と思う。参加を機に『地元についていいな』と思う生徒が増えればありがたい」と語る。

「一日に新聞紙の印刷が少なくなる」「南屏まつり」にも、総合的な探求の要素として7人が参加する。このうち「お化け屋敷を担当する4人は、当日の運営のみならず目標とする売上金額や、それを達成するための入場者数とは入れ金額から考え、企画・運営全体に携わった。

経営を円滑にするために、店からもらった遠布シールを農薬用の黒いマルチシートを活用。開播直前まで会場設置に汗をかいた3年の赤と緑さんは、「悩むことの連続だったけど、仕事の作り方を感じ取れた気がする」と話す。その上で、「本当に大変でも来た人に喜んでほしいという気持ち一つで頑張れる」と笑顔を再びたた

商工会青年部員でもある。藤澤之助実行委員長は、「青年経済人との関わりを通して、ビジネスマインドや地元の大切さを喚び取ってもらいたい」と、高校生の成長に期待した。



三六〇六國際會議於明治三十四年三月



工部＝建設省並に国土庁、建設省の9割、国土庁は1割